

感染状況・医療提供体制の分析（10月28日時点）

【10月29日モニタリング会議】

区分	モニタリング項目 ※①～⑤は7日間移動平均で算出	前回の数値 (10月21日公表時点)	現在の数値 (10月28日公表時点)	前回との比較	(参考) 緊急事態宣言下での最大値	項目ごとの分析※4	
感染状況	①新規陽性者数※⑤ (うち65歳以上)	171.7人 (24.9人)	156.0人 (24.9人)	→	167.0人 (4/14)	総括コメント 感染の再拡大に警戒が必要であると思われる	
	潜在・市中感染					今週は、複数の病院、高齢者施設、大学の運動部の寮、職場におけるクラスターの発生が報告された。基本的な感染予防策である、「手洗い、マスク着用、3密を避ける」等に加えて、こまめな換気、環境の清拭・消毒をあらためて、徹底する必要がある。 個別のコメントは別紙参照	
	②#7119（東京消防庁救急相談センター）※1における発熱等相談件数	49.9件	49.0件	→	114.7件 (4/8)		
	③新規陽性者における接触歴等不明者※⑤	数 97.4人	84.4人	↘	116.9人 (4/14)		
	増加比(※2)	92.8%	87.8%	→	281.7% (4/9)		
医療提供体制	検査体制					総括コメント 体制強化が必要であると思われる	
	④検査の陽性率（PCR・抗原）（検査人数）	3.6% (3,975.4人)	3.5% (4,061.6人)	→	31.7% (4/11)		
	受入体制	⑤救急医療の東京ルール※3の適用件数	32.9件	37.3件	↗	100.0件 (5/5)	入院患者数の急増にも対応できる病床の確保が依然として必要な状況である。重症患者数が再び大きく増加しており、今後の推移と通常の医療体制への影響に警戒が必要である。 個別のコメントは別紙参照
		⑥入院患者数（準備病床数）	990人 (2,640床)	951人 (2,640床)	→	1,413人 (5/12)	
⑦重症患者数 人工呼吸器管理（ECMO含む）が必要な患者（準備病床数）		24人 (150床)	30人 (150床)	↗	105人 (4/28,29)		

※1「#7119」…急病やけがの際に、緊急受診の必要性や診察可能な医療機関をアドバイスする電話相談窓口

※2 新規陽性者における接触歴等不明者の増加比は、絶対値で評価

※3「救急医療の東京ルール」…救急隊による5医療機関への受入要請又は選定開始から20分以上経過しても搬送先が決定しない事案

※4 分析にあたっては、上記項目以外にも新規陽性者の年齢別発生状況などの患者動向や病床別入院患者数等も参照

※5 明らかに他県で採取された検体が、都内の検査機関に持込まれたことにより判明した陽性者を除いてモニタリングしている。